

○ 本校の概要

<p>◆教育目標 ◎考える子 ○思いやる子 ○元気な子 ○やりぬく子</p> <p>★目指す学校像 「児童が進んでコミュニケーションを図り、自己の学びを高める学校」 教職員が経営参画し 互いに学び合う学校 保護者や地域の人々が連携し、信頼される学校</p> <p>★特色ある教育活動 ・国際理解教育 ・伝統文化教育 ・オリンピックパラリンピック教育 ・校内研究「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」(外国語活動)</p> <p>・学期ごとの学校公開 ・放課後算数クラブ ・土曜補習教室 ・読書タイム ・完全ノーチャイム ・30分間の休み時間 ・地域班活動 ・洗小江戸しぐさ ・夏休みのわくわくスクール</p> <p>・学校支援地域本部(スクールサポート洗足池) ・スクールバンドの活躍</p>
---

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:12月に実施する保護者アンケートで、「学習したことを理解している」項目の肯定的回答の割合が95%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ学習チェックシートは、児童には各単元の確かめプリントの後に見せ、個に応じてチャレンジまたはフォローアッププリントに取り組みせている。保護者には学期に1回(個人面談)見せて成果や課題を確認している。</li> <li>・4月に行ったベーシックドリルが85点未満の児童を放課後算数クラブや夏季補習に呼んで課題に取り組みさせた。その結果、全体の92%の児童が合格した。</li> <li>・授業改善ブックを作成し、授業改善プランの作成と改善策の実施を継続的に行った。今後は来年度の担任に改善内容について引き継いでいく。</li> <li>・「学習したことを理解している」のA評価は昨年度より9.3%上がったが、B評価が11.1%減ったため、肯定的評価が92%となり、昨年より1%減ってしまった。習熟度の高い児童には発展的な学習の機会を設けるとともに、習熟度の低い児童に対して補習や家庭学習の充実を通して習熟度を上げて学習内容の確実な定着を図るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度に応じて補習を行うなど学力向上に丁寧に取り組んでいる点が評価できます。保護者に対するアンケート調査については、保護者の主観的な見解(少し厳しめに付けるなど。)もあろうかと思っておりますので、当項目に対する成果指標としては客観的に捉えられる指標を採用してもよろしいかと思っております。</li> <li>・学力向上のために様々な取組がされていて、成果もしっかりつながっていると思っております。</li> <li>・授業改善ブックを作成し、きめ細かい指導の結果、90%以上の児童が合格という成果は素晴らしいと思っております。先生方の努力に感謝いたします。</li> <li>・引き続き児童の学力の底上げをしていただきたい。</li> <li>・成果評価が3であるのは、成果指標を厳しくされたことと思っております。取組については、十分評価できるものと思っております。</li> </ul>
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:同 85%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:同 75%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:同 75%以下			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:同 75%以下			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:11月に実施する児童の学習・生活アンケートで「毎日学校で生活することが楽しい」項目の肯定的回答の割合が92%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「洗小のきまり」で規則正しく生活できるようにするとともに、「洗足池小学校のいじめ防止基本方針」にもあるように早い段階から子供たちを注意深く見守り、教職員全員で対応する体制が整っている点が評価できます。子どもたちも安心して学校生活を送れると思っております。</li> <li>・学校とPTAで作成した「洗小のきまり」に、小中一貫のきまりの欄と、保護者と児童が振り返ってチェックをする欄を設け、個人面談時に持参し担任と確認するようにした。</li> <li>・道徳指導充実のために行った取組として、1学期3回、夏季休暇中1回、2学期2回、3学期1回が合計7回が挙げられる。</li> <li>・調査の結果ストレス症状のみられる児童に面談を行い、必要な指導を行った。結果については連絡会で教員全員が共通認識をもつようにした。</li> <li>・年3回、いじめ防止研修を校内で行い、クラスでも年3回授業を行った。</li> <li>・2学期から、毎月いじめチェックシートを担任が記入して共通認識を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、自己肯定感をもって育つことへの様々な取組がされていてよいと思っております。</li> <li>・今の時代、いじめ対策、子供のストレス対策も必要なことを感じ、そのことへの取組、教職員の共通理解を図ってとても良いと思っております。</li> <li>・小学生でも多くのストレスを抱える今の時代、学力向上の指導とともに「豊かな心を育む」指導も必要とされ先生方の負担が大変だと思っておりますが、楽しい学校生活が送れるよう取り組んでいきたいと思っております。</li> <li>・道徳教育を反復していただき、いじめ問題の根絶を図ってください。</li> <li>・きめ細かな状況把握に努められ、児童の肯定的な評価も得られ、十分評価できると思われます。</li> </ul>
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:同 80%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:同 70%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:同 70%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1:同 70%未満			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:12月に実施する保護者アンケートで、項目「体力の向上と危険防止の方法を身に付けさせている」の肯定的回答の割合が92%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果を基に、各クラスで児童が不得手とする運動を改善することを目的に「一学級一実践」として「遊具遊び」「ボール運動」などの運動に取り組んだ。</li> <li>・「洗小チャレンジ」(一校一取組)として全校で長縄や持久走などに年間を通して計画的に取り組んだ。</li> <li>・給食時間に食に関する話題を放送したり、世界の料理を献立に取り入れて紹介したりした。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシートを家庭と学校とでやりとりし、協力して望ましい生活習慣の定着を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一学級一実践」や「洗小チャレンジ」など、堅実な取り組みをされている点が評価できます。また、運動会を「洗小スポーツ祭り」として、PTAや地域の方々と連携して開催されており、地域一体となって取り組んでいる点も大変良いと思っております。</li> <li>・洗小チャレンジの年間を通しての取組は、体力、運動能力向上に繋がっていると思っております。</li> <li>・体力が向上すれば、「豊かな心」「学力向上」も望めると思っております。保護者(家庭生活)とも協力してお願いしたいと思っております。</li> <li>・小学生の体力低下が問題となっているところ、児童に合った施策をしていただいている。また、食との関連も視野に入れていただいている。</li> <li>・小学校での取り組まれた成果が中学校でも表れています。持久走に良い成果が出ています。肯定的な回答も多くあるとのこと、十分評価できると思っております。</li> </ul>
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:同 80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:同 70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:同 70%未満			
		学校独自に作成している学習・生活アンケートを実施し、実態を把握するとともに児童一人ひとりの支援に生かす。	1:同 70%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校公開週間の保護者アンケートで「分かりやすい授業をしている」「活動が充実している」の2項目のA評価が60%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターシップ研修を前期・後期の2期行い、教員の学習指導力の向上を図った。</li> <li>・若手教員が主体となってスキルアップ研修の内容を計画して実施したことで、その時に知りたい内容について、年間19回の研修を行うことができた。</li> <li>・担任と校内委員会やサポートチームが連携し、支援が必要な児童への対応を協議し支援を進めることができた。</li> <li>・毎月特別支援会を行い、各学年の実態の共通理解を図ったり特別な支援が必要な児童の対応を考えたりした。</li> <li>・学校公開の肯定的評価(AB評価)は100%に近いが、A評価に限定すると、「わかりやすい授業をしている」については平均すると60%を超えたが、「活動が充実している」については60%を達成できなかった。さらにOJTを充実させ、子供が活躍できる授業を工夫するなど授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開週間の保護者アンケートはあくまで洗足池小学校の教育活動の一断面を見た上でのアンケート結果であると考え、当項目に対する成果指標としては少し物足りなさを感じ評価をBとしました。担任と校内委員会、サポートチームが連携して支援が必要な児童への対応ができていない点は評価できます。これらの対策は一般の児童にも対しても応用可能だと思っております。</li> <li>・特別支援教育の充実、今後重要になってくると思っております。支援教育の更なる充実と向上に取り組んでいただけたらと思っております。</li> <li>・教員の指導力の向上は、児童の学力向上と連結しており、大変興味ある問題です。</li> <li>・他の評価指標に比べ、A評価で測ることが良いかどうか疑問です。ABの肯定的評価とした方が、学校評価としての評価の妥当性があり、学習等の向上に努めている成果を素直に示す方が良いと思う。</li> </ul>
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:同 55%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:同 50%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:同 50%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:同 50%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:学校公開における保護者の参観率が世帯数換算で75%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日の参観率はいずれも90%以上だったが、平日の参観率は30%程度であった。合計平均は、76.5%。平日の参観率を上げるために、伝統文化教室のような保護者も一緒に参観できるような催しも入れるなどの工夫をしていきたい。</li> <li>・洗小スクールサポートと連携することで、読み聞かせや外国語活動、学習支援などのボランティアを活用することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域教育連絡協議会では、各先生から学校内での活動内容を詳細に分かり易く報告していただき、先生方が児童のために一生懸命活動されていることが分かりました。今後は平日の授業参観率向上のために伝統文化教室など保護者も一緒に参観できる取組も考えているとのことなので、保護者の教育意識の向上のためにも大変有効だと思っております。</li> <li>・地域の小学校として、子どもたちが安心して就学できる環境づくりに協力をしていただいていると思っております。今後はより活発な連携、交流をお願いしたいと思います。</li> <li>・学校行事や様子を地域に公開されることは児童に親近感が生まれます。楽しく安心して学校生活が遅れるように地域全体での協力しなければと思っております。</li> <li>・保護者が学校に興味を持って内容を盛り込んでおり、学校全体の力の向上に繋がっているものと思っております。</li> <li>・76.5%は悪くないと思うので、自己評価4はよいと思っております。</li> </ul>
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:同 65%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:同 55%以上			
			1:同 55%未満			
			1:同 55%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。